

びびぎ



No. 11

ドラム缶工業会会報

ドラム缶工業会の1996年の活動方針について

さる1月26日のドラム缶工業会の新年懇親会において、工業会を代表して挨拶にたった永井理事長から、ドラム缶工業会の本年の課題・活動方針の要旨が次の通り説明されました。

永井理事長は、冒頭に「阪神・淡路大震災から1年過ぎ、その間社会不安、金融不安と実に様々なことがあったが、年が明けて今年は良い年になるように皆で頑張っていきたい」と挨拶されました。

引き続き、業界の需要動向について、「平成7年のドラム缶の生産は、業界全体では平成4年以来4年振りに前年を上回りました。しかしながら、部門別にみると、200ℓとペールは増加したものの、中小型缶は横ばいで、未だ回復の兆しが見えないのが気がかりで、平成8年は需要回復を期待したい」と述べられ、ドラム缶工業会の本年の課題・活動方針について、次の5つの点に重点を置いて工業会の運営を行いたいと説明されました。

まず第1に、昨年11月に神戸で開催予定だった、ICDM (International Confederation of Drum Manufacturers、国際鋼製ドラム製造業者連合会) 国際会議が地震のため延期され、本年4月大津で開催されます。国際委員会および企画委員会を中心にして、精力的に諸準備を進めておりますが、会員の皆様のご協力、ご支援を頂いてICDM会長国およびホスト国として万全な運営を図り、是非この会議を成功させて、更なるICDMの発展に寄与したい。

第2に、鋼製ドラムの国際標準化問題であります。昨年11月のICDM役員会で国際標準化の方向付けが確認され、ようやく共通の土俵が出来ました。

この規格は、ISO規格化を前提にしておりますので、通産省・工業技術院、需要家、更生缶工業会とも連携をとりながら、技術委員会を中心に今後の対応を進めていきたい。

第3に、ドラム缶のリサイクルシステム作成であります。昨年より更生缶工業会と役割を分担して取り組んでおりますが、本年は、業務委員会を中心に更に検



討を深め、関係業界とも連携をとってシステム作成を目指したい。

第4に、ドラム缶の物流問題の解決であります。物流問題はドラム缶業界の永年の課題でありまして、従来は個々に対応を進めてきましたが、本年は需要業界団体と会合を持って、問題の解決を図っていききたい。

最後に、従来から共通の技術課題について技術交流や共同研究等を行って来ましたが、今般、通産省製鉄課のご指導も頂いて、関係機関に「ドラム缶のマーキングの自動化」に関する技術開発事業の申請をする運びとなり、その準備・検討を進めておりますが、今後、この事業から何らかの成果が得られ、会員各社に寄与することを期待している。

以上の5点を重点課題として工業会の運営を図りたいと思いますので、会員の皆様も工業会活動に積極的に参画していただき、会員相互の協調と発展を図っていききたいと思います。

新年懇親会には、通商産業省 基礎産業局 小島製鉄課長、志方課長補佐、林 二次製品係長も出席され、小島課長から大津国際会議では、ICDM会長として世界のドラム缶業界をリードして欲しいこと、国際標準化問題、リサイクル問題、物流問題、技術開発等については、行政の立場から可能な範囲の支援をしたいと祝辞を述べられました。

当日は、正会員、賛助会員と併せて、通商産業省、歴代理事長、元委員長、新聞関係の方々をお招きしましたが、出席者は約130名で、和やかなムードの中で新年の挨拶と交流、懇親が繰り広げられました。

ICDMブルージュ役員会および 総会の概要について

ICDM(国際鋼製ドラム製造業者連合会)の役員会および総会が、1995年11月6日、ベルギーのブルージュで開催されたので、その概要を報告いたします。

【役員会関係】

会議の開催・期日：1995年11月6日(月)ベルギー・ブルージュ

参加メンバー：ICDM会長および日本(JSDA)、米国(SSCI)および欧州(SEFA)の3地区工業会の代表。(12名)

なお、日本からは、永井理事長、山口国際委員会委員長、室賀国際標準化Ad-hoc WG主査および柴野専務理事の4名が参加。

会議の内容：次の議題について3地域工業会からそれぞれ報告を行い、それに対して意見を交換し審議を行いました。

- ① 鋼製ドラムの国際標準化
- ② 国際輸送規則および国連勧告に関する諸関連事項
- ③ マーケティング事項：鋼製ドラムのイメージアップ代替品との競合
- ④ 環境問題、鋼製ドラムの再利用およびリサイクル
クリング：環境規制および基準
環境管理問題
- ⑤ 製造物責任
- ⑥ 鋼製ドラム業界と更生缶業界との協調

上記議題のうち、「鋼製ドラムの国際標準化」については、ICDMとしての方向づけが合意されました。この規格は、ISO規格化を前提としているので、今後、通産省・工業技術院、需要家、更生缶工業会など関係者と連絡をとりながら、細部の検討を行い対応していくこととなります。

また、ICDM大津国際会議を1996年4月、大津プリンスホテルに変更して開催することが、正式に承認されました。(会議の開催要領は別記の通り)

【総会関係】

ICDM総会は、役員会に引き続き同所で開催され、次のことが承認決定しました。

会議の内容：ICDM会長の選任。

永井理事長が、第2代ICDM会長に選任されました。任期は3年。なお、会則でICDM事務局は、会長の所属する工業会が業務を担当することとなっていますので、JSDAが3年間事務局を担当することとなりました。



ICDM大津国際会議について

本年4月7日(日)から12日(金)までの6日間、滋賀県大津市でICDM(International Confederation of Drum Manufacturers、国際鋼製ドラム製造業者連合会)の国際会議が、下記の要領で開催されます。この会議は、1995年11月、神戸で開催する予定でしたが、阪神・淡路大震災のために会期と会場が変更されたものです。

1. 会 期：1996年4月7日(日)～12日(金)
 2. 会 場：大津プリンスホテル
住 所：滋賀県大津市におの浜4-7-7
電 話：0775-21-1111
FAX：0775-21-1110
 3. 会議の名称：“The Future of Steel Drums”
ICDM Conference
Otsu, Japan, '96
 4. 参 加 者：新鋼製ドラム及びペール製造業
並びに関係者
 5. 会議日程およびプログラム：
4月7日(日) ウェルカムレセプション
4月8日(月) 1996年大津国際会議開会：永井ICDM
会長・JSDA理事長挨拶
山田大津市長歓迎挨拶
ICDM活動報告：永井ICDM会長
第1セッション：マーケティング関連
第2セッション：標準化および規則
*レディースプログラム(京都ツアー)
4月9日(火) 第3セッション：新技術・新製品
第4セッション：鋼製ドラムおよびペールのプロモーション
第5セッション：環境-鋼製ドラムの再利用、リサイクル、廃棄
オフィシャルディナー
*レディースプログラム(奈良ツアー)
4月10日(水) 第5セッション：続き
会議閉会：大津国際会議の決議および勧告
フェアウエルランチ
4月11日(木) オプショナルツアー(京都観光)
4月12日(金) 工場見学(オプショナル)(日鐵ドラム(株)
大阪工場)
- なお、この会議期間中に、次の会議が同所で開催されます。
- 4月6日(土) ICDMアドホックWG会議(国際標準化問題の検討)
 - 4月7日(日) ICDM役員会
 - 4月10日(水) ICDM/ICDR(ドラム更生業者国際連盟)合同会議
 - 4月10日(水) ICDM役員会・総会

ロゴマークの活用実態報告および啓蒙

ドラム缶イメージアップのための右図（色刷）のようなロゴマークを、ドラム缶工業会と日本ドラム缶更生工業会とで帯同して制定し、ドラム缶が汎用性・堅牢性・経済性・環境安全性等々に優れた容器であることをPRするため、このマークを幅広く使用するように勧めてきましたが、制定後1年を経過したところで、その活用実態を調査しました。

回答企業はドラム缶工業会会員100%（25社）、日本ドラム缶更生工業会会員40%（44社）ですが、それによると、広報誌からビデオ、看板まで幅広く利用されているものの、企業により活用度にはかなり差があるのが実態です。会社営業案内等のカタログ、贈呈用カレンダー、封筒、用箋、

レターヘッド、社員名刺等は採り入れ易いことから多くの活用を得ていますが、工場建家や看板、更にトラック等への表示は稀でした。

業界のイメージアップ・鋼製ドラムの優位性PR・ロゴマークの周知徹底・道路通行車両への啓蒙など、活用の狙いについては理解されていて、印刷物等は現在使用のものを消費後としたい意向が察せられました。

両業界は、この実態調査を踏まえ、同業他会員の活用例をさらに紹介し、それに倣い、いつでもどこでも目に付くよう、まず会員から啓蒙して他の活用例のアイデアをも発揮したいと考えています。



今年のNHK大河ドラマ「秀吉」がスタートした。秀吉の物語は、日本史上で最大の「サクセス・ストーリー」といっていいだろう。

秀吉は、少年時代から夢見る男であ

った。朝鮮出兵を除けば、秀吉の夢は明るくて大きい。

今、日本人のほとんどが元気がなく、自信を失い、夢見ることを止めてしまったような気がする。

生きることは、毎日明るい夢を見ることであり、不況と困難の時代にあっ

ても、秀吉にあやかって一諸に夢を見たいものである。



平成7年（1～12月度）ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

用途		石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比
缶種								
200	Q 缶	1,883	8,722	806	124	313	11,848	103.8
ペ	ー ル	13,111	10,681	1,220		614	25,626	101.3
100	Q 缶	12	156	3		微	171	93.4
50	Q 缶		268				268	118.6
ア	ス 缶 型	31	17				48	258.1
そ	の 他 容 量 缶	4	696		1	4	705	92.0
200 Q	垂鉛鉄板缶		99	6	微	7	112	103.0
	ステンレス缶		13	1	2		16	94.5
	小計		112	7	2	7	128	101.9
中 小 型	垂鉛鉄板缶		209	1		微	210	106.1
	ステンレス缶		6			微	6	48.6
	小計		215	1		微	216	102.8
合	計	15,041	20,867	2,037	127	938	39,010	102.0
構	成 比	19.6	70.3	6.5	0.9	2.7	100.0	

(注) 構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

DATA
FILE



キラリと光る
特殊ドラム!!

協和容器株式会社

ポリマイトドラム

PE粉体コーティングドラム、国内唯一の製造メーカーです。バリアー性に富んだ臭いの無い、しかも内部のチャイム溝もPEでカバーされ、クリーンルームで仕上げたゴミの少ないドラムです。

高純度化成品、香料、果汁等の充填に適した錆、鉄分の検出されない優れた性能を発揮するピンホールレスドラムです。

各種容量（200ℓ～20ℓ）に対応出来ます。

ステンレドラム

SUS304、SUS316等の鋼板を主原料とした、錆にくい、堅牢性に富んだ半永久的に使用出来るドラムです。

地板チャイムの溝を溶接で埋め込んだ、内容物残滓の残りにくいドラムの製造も行っております。



鋼管ドラム株式会社

当社は「トライザ 21」と銘打ち、21世紀を狙った「容器総合ビジネス」を基本コンセプトに全社運動を展開しております。

その一つに、リサイクル性を追究し、内容物の残滓が残る巻締め凹部の溝を埋込み、洗浄性と堅牢性を高めドラム缶のライフタイムの長期化を計り、ゴミは入れても自らはゴミにならない環境に優しい、名付けてエコドラムとして、あるいはステンレスU底缶を開発提供させて頂いております。

また現業では、安定した高品質の製品をお届けすることを使命とし、お客さまの目で品質管理し保証できるよう、昨年、当社全工場同時にISO 9002を日本化学QA→JAB（審査認定機関）に審査登録いたしました。

いかなるご要望、ご叱正にもお応えする覚悟で進めてまいります。

従来にも増したご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371


 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711


 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3681

 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680


 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285

 ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601


 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

 株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511


 東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

 日鐵ドラム株式会社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311

 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

 森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.11(平成8年2月23日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。